

第 I 章 生活設計と生活保障意識

1. 生活設計意識

ここでは、人々が自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計の有無と、どのくらい先のことまでについて考えているのかを捉えている。

(1) 生活設計の有無

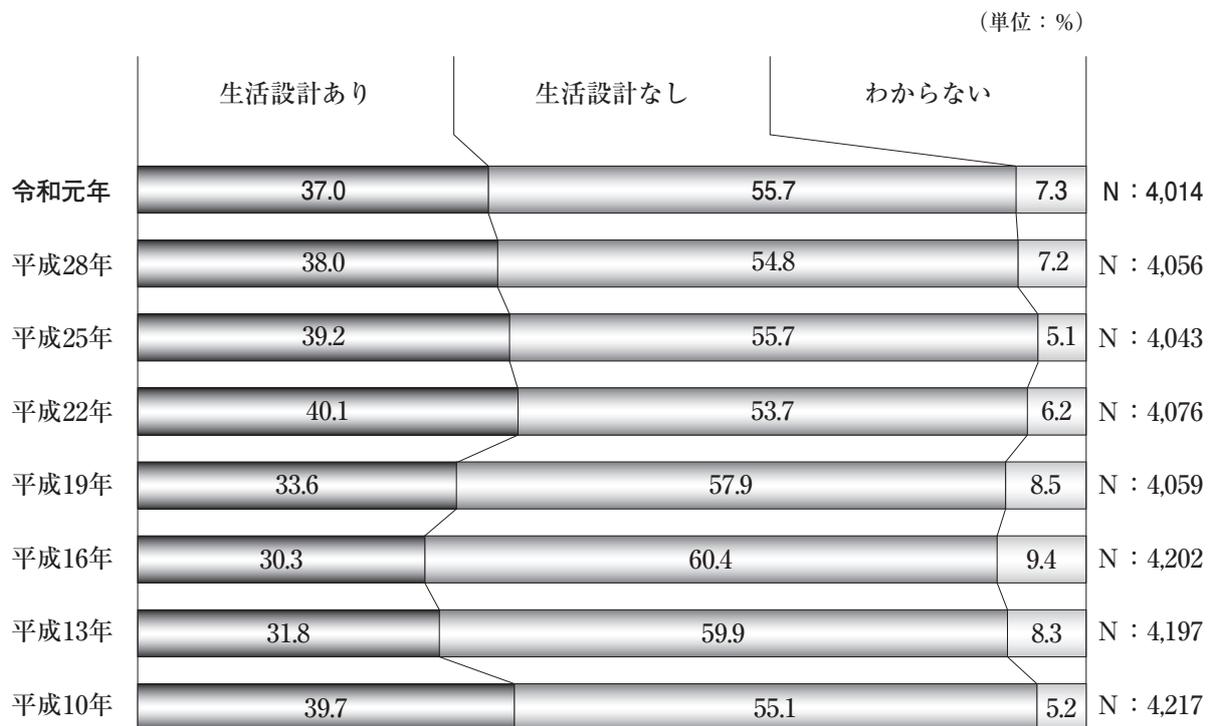
自分や家族の将来のために具体的な生活設計を立てているかどうかを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身やご家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計を立てていますか。

はい……………以下「生活設計あり」
いいえ……………以下「生活設計なし」
わからない

その結果、「生活設計あり」と回答した人は37.0%、「生活設計なし」とした人は55.7%となっている。前回と比較すると、大きな差はみられなかった。(図表 I - 1)

〈図表 I - 1〉 生活設計の有無



性・年齢別にみると、「生活設計あり」は男性の40歳代、女性の60歳代で高くなっている。(図表 I - 2)

〈図表 I - 2〉 生活設計の有無〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない
男 性	1,765	37.2	54.8	8.0
20歳代	205	24.4▲	62.4	13.2
30歳代	296	41.6	50.0	8.4
40歳代	422	41.2	52.6	6.2
50歳代	389	39.6	53.7	6.7
60歳代	410	36.8	56.8	6.3
女 性	2,249	36.9	56.3	6.8
20歳代	197	21.3▲	68.5	10.2
30歳代	383	33.7	58.5	7.8
40歳代	526	35.6	58.4	6.1
50歳代	511	39.9	53.8	6.3
60歳代	593	43.3	50.9▲	5.7

性・世帯年収別にみると、「生活設計あり」は男女とも高年収層ほど高くなっている。(図表 I - 3)

〈図表 I - 3〉 生活設計の有無〔性・世帯年収別〕

(単位：%)

	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない
男 性	1,765	37.2	54.8	8.0
300万円未満	449	19.2▲	70.6	10.2
300～500万円未満	359	33.1	60.4	6.4
500～700万円未満	270	39.3	54.8	5.9
700～1,000万円未満	247	52.6	41.7▲	5.7
1,000万円以上	127	66.9	30.7▲	2.4▲
女 性	2,249	36.9	56.3	6.8
300万円未満	554	24.2▲	69.5	6.3
300～500万円未満	442	34.4	60.2	5.4
500～700万円未満	337	40.1	53.4	6.5
700～1,000万円未満	297	45.5	50.5▲	4.0▲
1,000万円以上	108	65.7	30.6▲	3.7

(2) 生活設計の期間

「生活設計あり」と回答した人に、「それはだいたい何年ぐらい先のことまでですか」と尋ねたところ、平均期間は19.7年となっている。

期間の分布をみると、「16～20年」が28.0%で最も多く、以下「20年超」(25.9%)、「6～10年」(21.8%)となっている。

前回と比較すると、「20年超」が6.9ポイント増加しており、その結果平均期間が1.4年長くなっている。(図表 I - 4)

〈図表 I - 4〉 生活設計の期間

(単位：%)

	5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	20年超	わからない	平均
令和元年	5.7	21.8	8.6	28.0	25.9	10.0	N : 1,485 19.7年
平成28年	6.8	25.2	7.1	30.4	19.0	11.5	N : 1,542 18.3年
平成25年	11.4	29.3	8.6	26.5	13.2	10.9	N : 1,585 15.8年
平成22年	12.2	29.4	7.0	24.6	15.2	11.5	N : 1,633 16.1年
平成19年	22.3	36.5	7.0	16.0	6.7	11.4	N : 1,363 12.3年
平成16年	24.7	36.8	6.0	14.8	7.1	10.7	N : 1,273 12.0年
平成13年	27.3	38.2	6.2	12.7	5.5	10.0	N : 1,335 11.2年
平成10年	9.8	32.2	10.2	25.3	14.1	8.4	N : 1,673 16.4年

平均期間を性別にみると、男性では20.5年、女性では19.1年と男性の方が1.4年長くなっている。

期間の分布をみると、男女とも「5年以下」は20歳代が、「11～15年」は60歳代が、「20年超」は30歳代で高くなっている。また、男性の20歳代では「6～10年」が、女性の60歳代では「16～20年」がそれぞれ高くなっている。(図表 I - 5)

〈図表 I - 5〉 生活設計の期間〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	20年超	わからない	平均(年)
男性	656	5.3	19.7	10.2	27.7	28.0	9.0	20.5
20歳代	50	16.0	32.0	4.0	8.0▲	32.0	8.0	21.1
30歳代	123	7.3	15.4	7.3	21.1	42.3	6.5	24.7
40歳代	174	1.7▲	14.4▲	10.9	31.6	30.5	10.9	21.6
50歳代	154	3.9	22.7	9.1	29.9	27.3	7.1	19.3
60歳代	151	6.0	21.2	15.2	33.8	13.2▲	10.6	16.8
女性	829	6.0	23.5	7.2	28.2	24.1	10.9	19.1
20歳代	42	14.3	16.7	2.4	19.0	33.3	14.3	21.3
30歳代	129	9.3	23.3	4.7	17.1▲	39.5	6.2	21.5
40歳代	187	4.8	19.3	5.3	24.6	36.4	9.6	21.8
50歳代	204	5.4	25.0	6.9	33.3	21.1	8.3	18.1
60歳代	257	3.5▲	26.5	10.9	35.0	8.6▲	15.6	16.5

(3) 生活設計を立てない理由

「生活設計なし」と回答した人に、その理由を以下のように尋ねた。

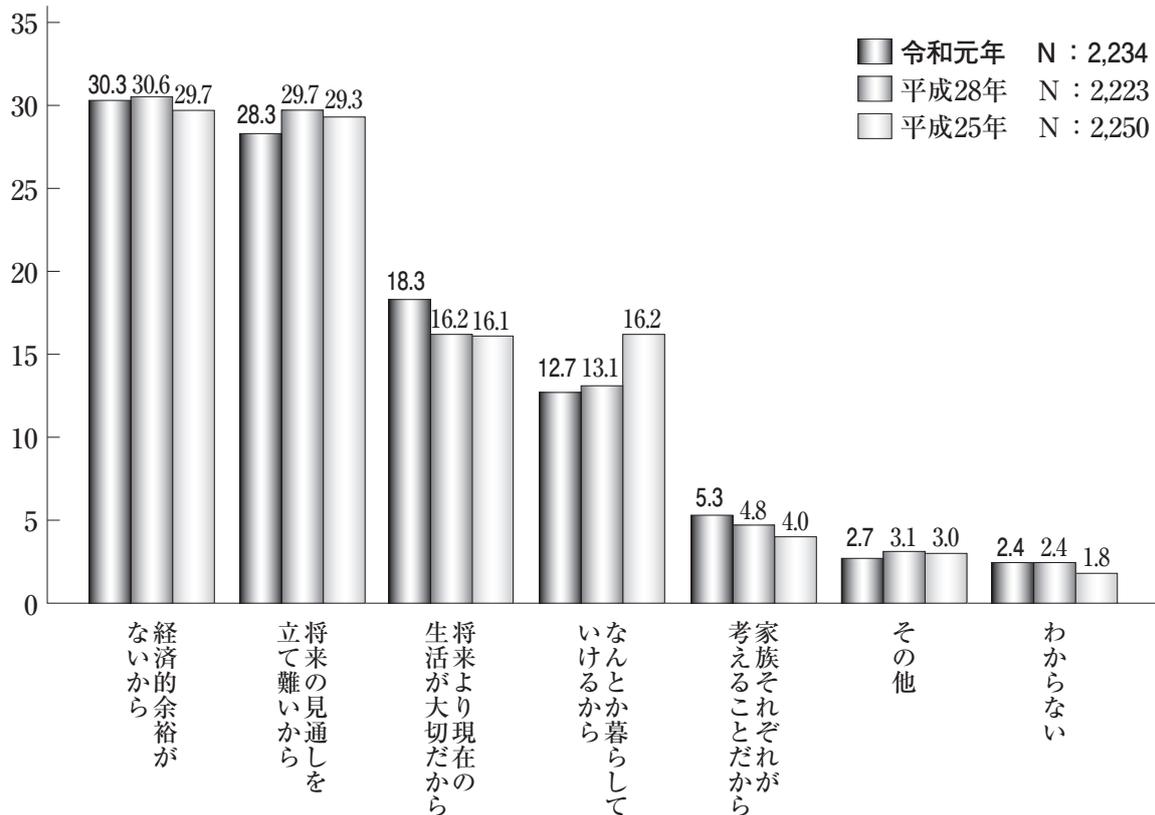
あなたが具体的な生活設計を立てていない理由は何ですか。この中で最も近いと思うものを1つ選んでお答えください。

- (ア) 収入や支出などの将来の見通しを立てることが難しいから……以下「将来の見通しを立て難いから」
- (イ) 将来に備えるための経済的な余裕がないから……以下「経済的余裕がないから」
- (ウ) 生活設計を立てなくても、なんとか暮らしていけるから……以下「なんとか暮らしていけるから」
- (エ) 将来よりも現在の生活を充実させることの方が大切だから……以下「将来より現在の生活が大切だから」
- (オ) 家族がそれぞれで考えるべきことだから……以下「家族それぞれが考えることだから」
- (カ) その他
わからない

その結果、「経済的余裕がないから」が30.3%と最も高く、以下「将来の見通しを立て難いから」(28.3%)、「将来より現在の生活が大切だから」(18.3%)、「なんとか暮らしていけるから」(12.7%)の順となっている。(図表 I - 6)

〈図表 I - 6〉 生活設計を立てない理由

(単位：%)



性別にみると「なんとか暮らしていけるから」で男性が高くなっている。

性・年齢別にみると、「経済的余裕がないから」は男女とも40歳代で、「なんとか暮らしていけるから」は男女とも60歳代で、それぞれ高くなっている。また、「将来より現在の生活が大切だから」は男性20歳代、40歳代で高く、「家族それぞれが考えることだから」は女性60歳代で高くなっている。(図表I-7)

〈図表I-7〉 生活設計を立てない理由〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	将来の見通しを立て 難しいから	経済的余裕がないから	将来より現在の生活が大切だから	なんとか暮らしていけるから	家族それぞれが考えることだから	その他	わからない
男性	967	27.5	29.4	17.4	15.4	4.6	3.3	2.5
20歳代	128	25.0	25.0	25.0	10.2	6.3	3.9	4.7
30歳代	148	26.4	29.7	20.9	12.8	3.4	4.7	2.0
40歳代	222	26.6	34.7	22.5	9.5▲	3.2	1.8	1.8
50歳代	209	30.1	33.0	11.0▲	17.7	3.3	2.9	1.9
60歳代	233	29.2	26.2	9.9▲	24.5	5.2	2.6	2.6
女性	1,267	28.9	31.1	19.0	10.6	5.8	2.3	2.3
20歳代	135	31.9	27.4	23.0	8.1	4.4	1.5	3.7
30歳代	224	32.1	32.1	22.3	8.0	0.9▲	2.2	2.2
40歳代	307	24.8	37.1	21.2	9.1	3.6	2.3	2.0
50歳代	275	33.5	32.4	17.5	7.6	5.8	1.5	1.8
60歳代	302	24.2▲	26.8	14.2▲	18.5	10.9	3.0	2.3

2. 将来のライフイベントと経済的準備状況

(1) 想定される将来のライフイベント

自分や家族の将来のライフイベントとして想定していることを捉えるため、以下のように尋ねた。

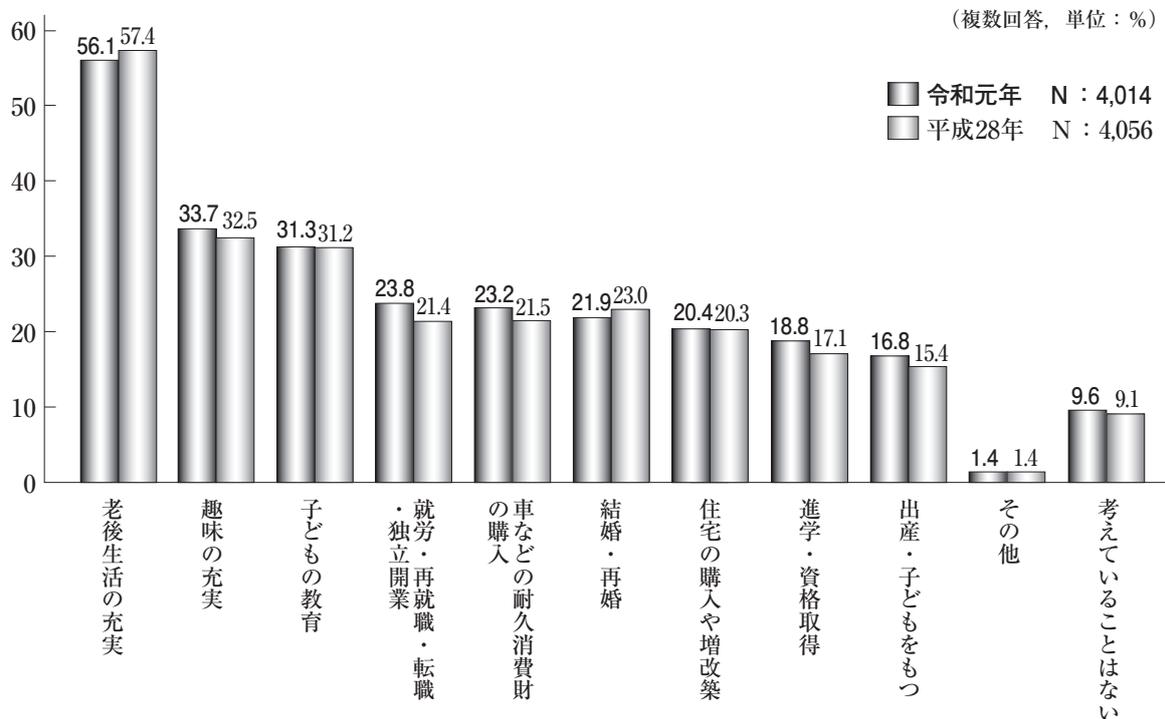
あなたは、ご自身やご家族の将来のライフイベントとして考えていることはどれですか。この中からいくつでもお選びください。

それでは、今お答えいただいた中で、最も重要なライフイベントを1つだけお選びください。

- (ア) 就労・再就職・転職・独立開業
 - (イ) 進学・資格取得
 - (ウ) 結婚・再婚
 - (エ) 出産・子どもをもつ
 - (オ) 子どもの教育
 - (カ) 住宅の購入や増改築
 - (キ) 車などの耐久消費財の購入
 - (ク) 趣味の充実
 - (ケ) 老後生活の充実
 - (コ) その他
- 考えていることはない

その結果、「老後生活の充実」が56.1%で最も高く、以下「趣味の充実」(33.7%)、「子どもの教育」(31.3%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(23.8%)、「車などの耐久消費財の購入」(23.2%)の順となっている。(図表 I-8)

〈図表 I-8〉 想定される将来のライフイベント



性別にみると、女性で「老後生活の充実」、「子どもの教育」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「就労・再就職・転職・独立開業」、「車などの耐久消費財の購入」、「住宅の購入や増改築」、「出産・子どもをもつ」は概ね若年齢層ほど高く、「老後生活の充実」は高年齢層ほど高くなっている。また、「進学・資格取得」は男性30～40歳代、女性20～40歳代で、「趣味の充実」は男女とも20歳代で高くなっている。(図表I-9)

〈図表I-9〉 想定される将来のライフイベント〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	老後生活の充実	趣味の充実	子どもの教育	就労・再就職・ 転職・独立開業	車などの 耐久消費財の購入	結婚・再婚	住宅の購入や 増改築	進学・資格取得	出産・子どもをもつ	その他	考えている ことはない
男性	1,765	50.4	34.8	29.6	24.6	24.1	22.8	19.3	18.6	16.0	1.1	11.4
20歳代	205	25.9▲	44.4	33.7	38.5	34.1	54.1	31.2	21.0	36.1	0.5	6.8▲
30歳代	296	44.3▲	32.1	54.7	29.4	32.1	24.3	33.8	27.4	26.4	0.3	6.4▲
40歳代	422	49.8	34.1	48.6	26.5	30.1	21.8	17.3	30.1	14.9	0.0▲	7.1▲
50歳代	389	60.4	33.4	15.7▲	22.6	19.8▲	18.3▲	14.1▲	12.6▲	9.3▲	1.0	14.1
60歳代	410	63.2	35.1	4.6▲	11.2▲	11.0▲	10.5▲	10.7▲	2.2	5.1▲	3.4	19.0
女性	2,249	60.5	32.8	32.6	23.1	22.5	21.3	21.2	18.9	17.5	1.7	8.1
20歳代	197	31.0▲	41.1	40.6	38.1	28.9	50.8	29.9	25.4	52.8	0.0	5.6
30歳代	383	50.1▲	31.3	70.0	31.9	33.4	22.7	31.1	32.6	29.8	0.0▲	3.1▲
40歳代	526	54.0▲	28.5▲	53.2	28.3	28.5	22.4	20.9	30.2	12.5▲	1.0	7.0
50歳代	511	72.2	33.5	14.7▲	20.4	18.4▲	21.5	21.7	11.4▲	13.5▲	2.9	8.0
60歳代	593	74.5	34.6	2.7▲	7.3▲	11.3▲	6.9▲	11.0▲	2.4	3.4	3.0	13.2

性・ライフステージ別にみると、「子どもの教育」、「進学・資格取得」は男女とも「既婚・末子未就学児」から「既婚・末子中学生、高校生」の層で高く、「老後生活の充実」は男女ともに「既婚・末子短大・大学・大学院生」から「既婚・子どもすべて卒業（既婚）」の層で高くなっている。また、「趣味の充実」は女性の「未婚」、「既婚・子どもすべて卒業（既婚）」で、「就労・再就職・転職・独立開業」は男性では「未婚」、「既婚・末子中学生、高校生」で、女性では「未婚」、「既婚・末子未就学児」、「既婚・末子中学生、高校生」で、「出産・子どもをもつ」は男性では「既婚・子どもなし」、「既婚・末子未就学児」で、女性では「未婚」から「既婚・末子未就学児」で高くなっている。（図表 I - 10）

〈図表 I - 10〉 想定される将来のライフイベント〔性・ライフステージ別〕

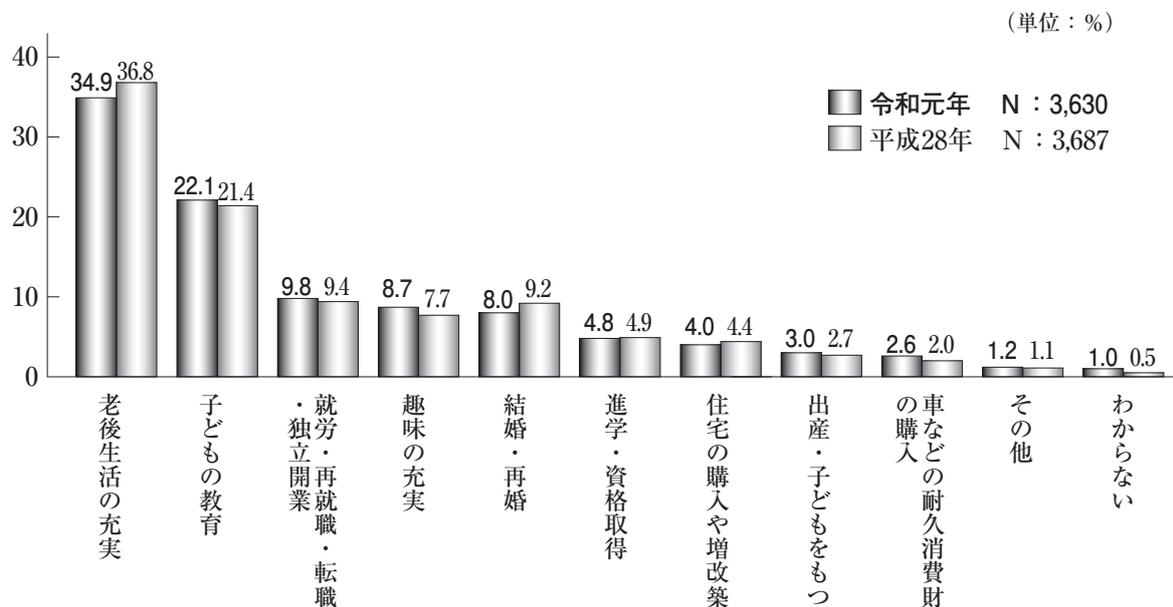
（複数回答，単位：％）

	N	老後生活の充実	趣味の充実	子どもの教育	就労・再就職・転職・独立開業	車などの耐久消費財の購入	結婚・再婚	住宅の購入や増改築	進学・資格取得	もつ 出産・子どもを	その他	考えていることはない
男 性	1,765	50.4	34.8	29.6	24.6	24.1	22.8	19.3	18.6	16.0	1.1	11.4
未 婚	521	30.5▲	38.0	13.2▲	35.3	25.0	36.3	20.2	15.2▲	18.0	0.4	14.0
既 婚・子どもなし	126	57.9	40.5	15.1▲	15.9▲	20.6	4.8▲	24.6	7.1▲	27.0	0.0	12.7
既 婚・末子未就学児	229	52.8	31.4	83.0	24.9	33.6	19.2	32.8	40.2	24.0	0.9	3.9▲
既 婚・末子小学生	162	51.9	23.5▲	72.8	24.1	35.8	21.6	16.7	37.0	16.7	0.0	6.2▲
既 婚・末子中学生、高校生	165	52.7	34.5	57.6	31.5	28.5	29.7	20.6	41.2	15.8	0.0	4.8▲
既 婚・末子短大・大学・大学院生	69	66.7	34.8	18.8▲	23.2	31.9	23.2	15.9	7.2▲	14.5	0.0	10.1
既 婚・子どもすべて卒業（未婚）	306	65.4	36.9	3.3▲	14.7▲	14.1▲	18.3▲	13.4▲	2.6▲	9.5▲	3.6	12.4
既 婚・子どもすべて卒業（既婚）	173	64.7	35.8	4.6▲	12.7▲	12.7▲	2.9▲	8.7▲	2.9▲	3.5▲	2.9	20.2
女 性	2,249	60.5	32.8	32.6	23.1	22.5	21.3	21.2	18.9	17.5	1.7	8.1
未 婚	372	44.1▲	43.8	18.5▲	38.2	21.0	41.1	25.0	18.3	34.9	0.3▲	10.2
既 婚・子どもなし	160	61.3	35.6	12.5▲	16.9	26.3	5.0▲	28.1	6.3▲	24.4	0.0	7.5
既 婚・末子未就学児	303	51.8▲	26.1▲	88.1	34.3	38.0	22.8	32.7	43.2	25.7	0.7	2.6▲
既 婚・末子小学生	217	50.2▲	22.6▲	81.1	25.3	29.0	19.4	25.8	34.6	10.6▲	0.0▲	0.9▲
既 婚・末子中学生、高校生	234	58.1	29.1	63.2	32.1	25.6	30.3	17.1	44.0	17.5	0.9	3.8▲
既 婚・末子短大・大学・大学院生	112	71.4	33.0	22.3▲	27.7	25.9	35.7	19.6	12.5	18.8	4.5	5.4
既 婚・子どもすべて卒業（未婚）	525	70.5	31.2	4.2▲	12.0▲	14.5▲	17.1▲	16.2▲	3.2▲	9.7▲	3.8	12.4
既 婚・子どもすべて卒業（既婚）	310	77.4	38.1	1.9▲	6.8▲	11.9▲	1.9▲	11.0▲	2.3▲	3.2▲	2.6	11.6

(2) 最も重要なライフイベント

最も重要なライフイベントについてみると、「老後生活の充実」が34.9%で最も高く、以下「子どもの教育」(22.1%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(9.8%)、「趣味の充実」(8.7%)、「結婚・再婚」(8.0%)の順となっている。(図表I-11)

〈図表I-11〉 最も重要なライフイベント



性別にみると、男性で「就労・再就職・転職・独立開業」、「趣味の充実」、「結婚・再婚」が、女性で「老後生活の充実」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともに「結婚・再婚」は20歳代で、「出産・子どもをもつ」は20～30歳代で、「子どもの教育」は30～40歳代で、それぞれ高くなっている。また、男女とも「老後生活の充実」は高齢層ほど高くなっている。(図表I-12)

〈図表I-12〉 最も重要なライフイベント〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	老後生活の充実	子どもの教育	就労・再就職・転職・独立開業	趣味の充実	結婚・再婚	進学・資格取得	住宅の購入や増改築	出産・子どもをもつ	車などの耐久消費財の購入	その他	わからない
男性	1,563	30.3	21.3	12.7	9.9	9.2	4.7	4.2	2.9	2.8	0.8	1.2
20歳代	191	0.5▲	12.6▲	25.7	13.1	28.8	5.8	4.2	6.3	3.1	0.0	0.0
30歳代	277	7.2▲	40.4	9.7	8.7	9.4	4.7	8.3	6.5	3.2	0.4	1.4
40歳代	392	19.9▲	37.0	11.7	7.4	4.8▲	6.9	4.1	3.6	3.6	0.0▲	1.0
50歳代	334	49.4	12.3▲	11.7	8.7	7.2	4.2	2.4	0.0▲	2.4	0.6	1.2
60歳代	332	63.3	3.0▲	6.3▲	13.6	4.5▲	0.3▲	2.7	0.6▲	1.2	3.0	1.5
女性	2,067	38.4	22.7	7.5	7.7	7.0	4.9	3.8	3.0	2.5	1.5	0.9
20歳代	186	2.2▲	18.3	15.1	11.3	26.3	8.1	3.8	12.9	1.6	0.0	0.5
30歳代	371	7.3▲	50.1	6.7	4.6▲	5.9	7.5	6.5	8.6	1.9	0.0▲	0.8
40歳代	489	24.1▲	42.3	7.8	7.2	3.1▲	8.2	2.7	0.2▲	3.5	0.6	0.4
50歳代	470	56.6	7.9▲	8.5	7.9	6.2	1.5▲	4.5	1.1▲	2.3	2.8	0.9
60歳代	515	73.2	0.8▲	2.1▲	9.3	3.9▲	1.0▲	2.7	0.2▲	2.5	2.7	1.6

性・ライフステージ別にみると、男女とも「子どもの教育」は“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高く、「進学・資格取得」は、男性では“既婚・末子小学生”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で、女性では“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高くなっている。また、「老後生活の充実」は男女ともに“既婚・子どもなし”および“既婚・末子短大・大学・大学院生”から“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”の層で高くなっている。（図表 I - 13）

〈図表 I - 13〉 最も重要なライフイベント〔性・ライフステージ別〕

（単位：％）

	N	老後生活の充実	子どもの教育	就労・再就職・ 転職・独立開業	趣味の充実	結婚・再婚	進学・資格取得	増改築 住宅の購入や	もつ 出産・子どもを	車などの 耐久消費財の購入	その他	わからない
男性	1,563	30.3	21.3	12.7	9.9	9.2	4.7	4.2	2.9	2.8	0.8	1.2
未婚	448	15.2▲	2.9▲	26.1	12.9	22.1	5.4	5.6	2.0	6.3	0.2	1.3
既婚・子どもなし	110	40.0	1.8▲	8.2	15.5	1.8▲	0.9	5.5	23.6	1.8	0.0	0.9
既婚・末子未就学児	220	5.5▲	74.5	3.6▲	2.7▲	0.0▲	4.1	5.0	1.4	0.9	0.9	1.4
既婚・末子小学生	152	13.2▲	56.6	7.9	3.3▲	2.6▲	9.2	2.0	2.6	1.3	0.0	1.3
既婚・末子中学生、高校生	157	22.9▲	35.7	9.6	7.0	5.7	12.1	3.8	0.6	1.9	0.0	0.6
既婚・末子短大・大学・大学院生	62	50.0	4.8▲	9.7	16.1	9.7	3.2	4.8	0.0	1.6	0.0	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	268	60.8	1.5▲	7.8▲	10.8	8.6	1.5▲	3.4	0.4▲	0.7▲	2.6	1.9
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	138	67.4	2.9▲	8.0	13.0	0.7▲	0.7▲	1.4	1.4	2.2	2.2	0.0
女性	2,067	38.4	22.7	7.5	7.7	7.0	4.9	3.8	3.0	2.5	1.5	0.9
未婚	334	22.2▲	3.0▲	18.9	15.0	22.8	6.3	3.0	4.8	2.7	0.3	1.2
既婚・子どもなし	148	46.6	1.4▲	8.8	6.8	2.7▲	0.0▲	8.1	17.6	6.8	0.0	1.4
既婚・末子未就学児	295	4.1▲	66.8	5.1	0.7▲	1.4▲	10.2	5.8	4.7	1.0	0.3	0.0
既婚・末子小学生	215	11.6▲	67.4	4.2	3.3▲	2.3▲	7.9	3.3	0.0▲	0.0▲	0.0	0.0
既婚・末子中学生、高校生	225	22.2▲	44.0	8.0	4.0▲	3.1▲	12.4	1.8	0.4▲	1.8	0.9	1.3
既婚・末子短大・大学・大学院生	106	51.9	10.4▲	6.6	10.4	5.7	0.9	2.8	0.0	6.6	3.8	0.9
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	460	63.3	0.9▲	5.2▲	8.0	9.1	0.2▲	5.0	0.7▲	2.8	3.5	1.3
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	274	76.6	0.4▲	1.8▲	12.0	0.4▲	1.5▲	0.7▲	1.1▲	2.2	2.2	1.1

(3) 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
わからない

その結果、「準備できている」（「順調に準備できている」と「ある程度準備できている」の合計）は42.9%、「準備できていない」（「あまり準備ができていない」と「まったく準備ができていない」の合計）は55.6%となっている。

「準備できている」は「子どもの教育」、「趣味の充実」、「出産・子どもをもつ」で5割を超えて高く、「就労・再就職・転職・独立開業」は37.9%、「住宅の購入や増改築」は34.0%、「結婚・再婚」は31.8%と低くなっている。（図表 I - 14）

〈図表 I - 14〉 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

（単位：％）

	N	順調に準備 できている	ある程度準備 できている	準備できている	わからない	準備 できていない	あまり準備が できていない	まったく準備が できていない
全体	3,593	5.5	37.5	42.9	1.5	55.6	41.2	14.4
老後生活の充実	1,267	3.9	35.0	38.8	1.5	59.7	42.0	17.7
子どもの教育	802	5.7	44.9	50.6	1.0	48.4	41.6	6.7
就労・再就職・転職・独立開業	354	5.4	32.5	37.9	3.1	59.0	42.9	16.1
趣味の充実	314	9.9	43.9	53.8	1.3	44.9	33.8	11.1
結婚・再婚	289	4.5	27.3	31.8	1.7	66.4	43.6	22.8
進学・資格取得	176	6.8	42.6	49.4	0.6	50.0	35.8	14.2
住宅の購入や増改築	144	2.1	31.9	34.0	0.7	65.3	43.8	21.5
出産・子どもをもつ	109	7.3	43.1	50.5	1.8	47.7	37.6	10.1
車などの耐久消費財の購入	95	7.4	34.7	42.1	0.0	57.9	48.4	9.5
その他	43	18.6	25.6	44.2	4.7	51.2	39.5	11.6

3. 生活上の不安と経済的準備状況

(1) 生活上の不安項目

日ごろの生活や将来に向けて不安を感じていることを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、日ごろの生活や将来に向けて、どのような点に不安をお持ちですか。この中からいくつでもお選びください。

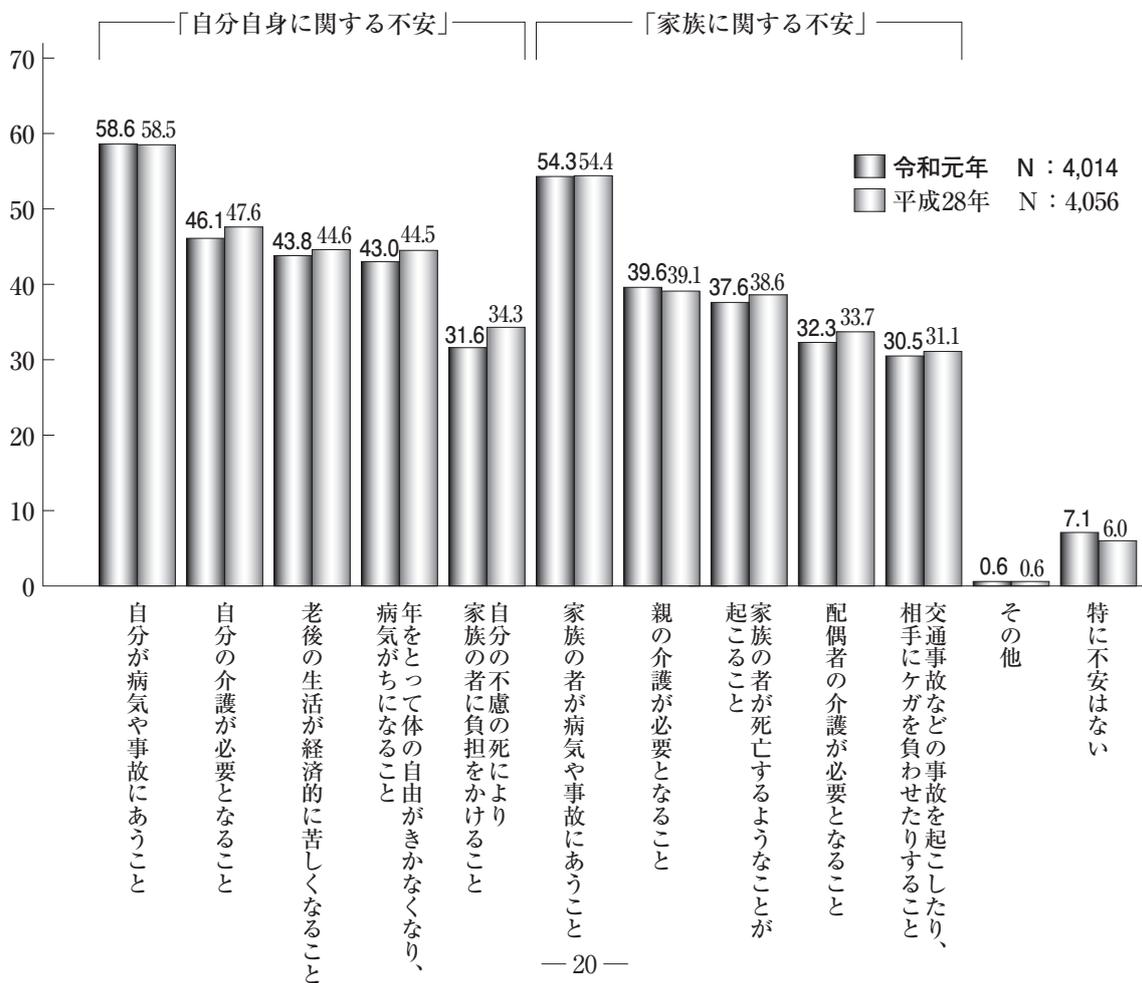
それでは、今お答えいただいた中で、最も不安な点を1つだけお選びください。

- (ア) 自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること
- (イ) 家族の者が死亡するようなことが起こること
- (ウ) 自分が病気や事故にあうこと
- (エ) 家族の者が病気や事故にあうこと
- (オ) 自分の介護が必要となること
- (カ) 親の介護が必要となること
- (キ) 配偶者の介護が必要となること
- (ク) 年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること
- (ケ) 老後の生活が経済的に苦しくなること
- (コ) 交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること
- (サ) その他
- 特に不安はない

その結果、自分自身に関する不安については、「自分が病気や事故にあうこと」が58.6%で最も高く、以下「自分の介護が必要となること」(46.1%)、「老後の生活が経済的に苦しくなること」(43.8%)の順となっている。また、家族に関する不安項目についてみると、「家族の者が病気や事故にあうこと」(54.3%)が最も高く、「親の介護が必要となること」(39.6%)、「家族の者が死亡するようなことが起こること」(37.6%)の順となっている。(図表 I - 15)

〈図表 I - 15〉 生活上の不安項目

(複数回答, 単位: %)



性別にみると、多くの項目で女性の方が高く、男性の方が高い項目は「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」のみとなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は概ね高年齢層ほど高く、「交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること」は男性30歳代、女性30～40歳代で高くなっている。また、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男女とも30～40歳代で、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は男性40歳代、女性20～40歳代で高くなっている。(図表 I - 16)

〈図表 I - 16〉 生活上の不安項目〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	特に不安はない
		自分が病気や事故に あうこと	自分の介護が 必要となること	老後の生活が 経済的に 苦しくなること	年をとって 体の自由が きかなくなり、 病気がち になること	年をとって 体の自由が きかなくなり、 病気がち になること	家族の者が 病気や 事故に あうこと	親の介護 が必要と なること	家族の者が 死亡する ような ことが 起こること	配偶者の 介護が 必要と なること	交通事 故など の事故 を起 こしたり、 相手に ケガを 負 わせ たり する こと		
男 性	1,765	57.4	41.6	39.5	39.3	34.9	47.3	37.6	32.1	26.1	29.1	0.8	9.3
20歳代	205	56.6	27.3▲	31.2▲	27.3▲	30.2	50.2	40.0	37.1	11.2▲	34.6	1.0	9.8
30歳代	296	58.4	36.5▲	35.5	33.1▲	40.9	54.7	52.0	36.1	23.6	34.8	1.4	9.8
40歳代	422	62.8	40.0	46.9	42.2	47.2	50.5	49.3	38.9	28.7	31.0	0.0▲	6.4▲
50歳代	389	56.3	46.5	46.5	44.0	31.4	43.7	38.8	28.0▲	29.3	27.0	1.0	8.5
60歳代	410	54.9	52.4	34.4▲	44.6	25.6▲	42.2▲	13.9▲	24.1▲	32.0	22.2▲	0.7	10.2
女 性	2,249	59.6	49.7	47.1	45.9	29.0	59.9	41.3	42.0	37.2	31.5	0.4	5.4
20歳代	197	55.8	26.4▲	40.6	24.4▲	22.3▲	59.9	48.2	49.2	14.2▲	32.5	0.0	11.2
30歳代	383	64.5	39.2▲	52.5	38.9▲	35.5	68.1	54.8	55.6	35.0	36.8	0.5	5.2
40歳代	526	61.6	47.0	53.2	43.2	35.6	68.1	57.4	48.1	39.9	36.1	0.6	3.2▲
50歳代	511	62.2	62.8	52.1	54.8	29.0	60.1	41.3	38.2▲	44.0	30.1	0.0	2.0▲
60歳代	593	55.5▲	57.7	38.1▲	54.3	22.1▲	48.1▲	16.9▲	28.3▲	39.5	25.0▲	0.7	7.3

性・ライフステージ別にみると、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性では“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で、女性では“既婚・末子未就学児”、“既婚・末子小学生”の層で、それぞれ高くなっている。また、「親の介護が必要となること」は男性の“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層、女性の“未婚”および“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高く、「自分の介護が必要となること」は男性の“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”、“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”の層、女性の“既婚・末子短大・大学・大学院生”から“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”の層で高くなっている。（図表 I - 17）

〈図表 I - 17〉 生活上の不安項目〔性・ライフステージ別〕

（複数回答，単位：％）

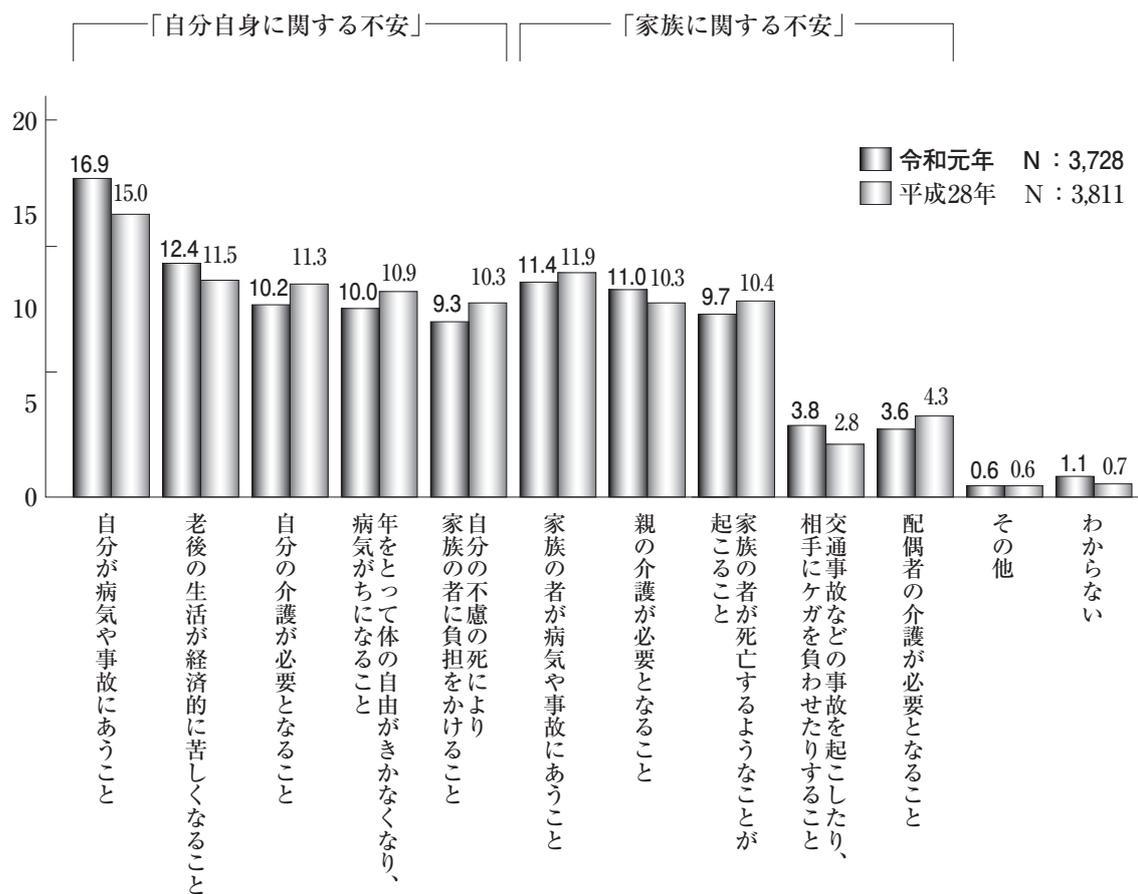
	N	自分自身に関する不安						家族に関する不安					その他	特に不安はない
		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	老後の生活が経済的に苦しくなること	病気がちになること	自由がきかなくなり、年をとって体の負担をかけること	家族の者に自分の不慮の死により負担をかけること	家族の者が病気や事故にあうこと	親の介護が必要となること	家族の者が死亡するようなことが起こること	配偶者の介護が必要となること	交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること		
男性	1,765	57.4	41.6	39.5	39.3	34.9	47.3	37.6	32.1	26.1	29.1	0.8	9.3	
未婚	521	51.8▲	31.1▲	36.3	32.1▲	25.5▲	39.5▲	39.9	30.7	6.9▲	29.9	1.9	12.1	
既婚・子どもなし	126	62.7	46.0	44.4	42.9	38.9	54.8	43.7	33.3	31.7	30.2	0.0	13.5	
既婚・末子未就学児	229	62.9	39.3	41.0	42.4	50.2	57.2	54.6	45.0	31.9	36.7	0.4	4.4▲	
既婚・末子小学生	162	63.6	40.1	46.3	39.5	49.4	51.9	48.8	41.4	35.8	30.9	0.0	4.9▲	
既婚・末子中学生、高校生	165	58.2	41.2	41.8	38.2	46.1	49.7	44.8	31.5	31.5	29.7	0.6	6.1	
既婚・末子短大・大学・大学院生	69	68.1	52.2	34.8	43.5	37.7	55.1	39.1	31.9	34.8	26.1	0.0	7.2	
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	306	61.4	52.0	42.8	44.1	31.4	50.3	23.2▲	26.1▲	35.3	25.2	1.0	10.5	
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	173	46.8▲	53.2	32.9	45.7	22.5▲	37.0▲	12.1▲	22.5▲	37.0	22.5▲	0.0	9.8	
女性	2,249	59.6	49.7	47.1	45.9	29.0	59.9	41.3	42.0	37.2	31.5	0.4	5.4	
未婚	372	55.9	34.1▲	44.1	36.6▲	22.3▲	51.1▲	51.9	44.4	7.5▲	26.9▲	0.3	9.7	
既婚・子どもなし	160	60.6	55.0	47.5	45.0	25.0	58.8	46.3	39.4	48.1	30.6	0.6	8.1	
既婚・末子未就学児	303	65.7	40.3▲	55.4	37.0▲	40.6	71.3	55.1	61.4	41.6	40.6	0.3	3.3	
既婚・末子小学生	217	62.2	45.2	52.1	43.8	41.5	71.9	56.2	54.8	41.5	32.3	0.5	2.8	
既婚・末子中学生、高校生	234	64.5	47.9	50.0	49.1	33.3	66.2	51.7	44.4	41.9	39.7	0.9	3.4	
既婚・末子短大・大学・大学院生	112	56.3	65.2	55.4	48.2	34.8	67.0	42.9	37.5	48.2	31.3	0.0	1.8	
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	525	61.3	59.0	44.4	53.1	25.7	59.0	28.0▲	31.0▲	44.4	32.0	0.4	4.6	
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	310	50.3▲	58.1	38.4▲	52.9	20.0▲	46.5▲	17.4▲	31.9▲	40.0	21.9▲	0.6	6.5	

(2) 最も不安な生活上の不安項目

最も不安に感じていることについてみると、自分自身に関する不安については「自分が病気や事故にあうこと」が16.9%、「老後の生活が経済的に苦しくなること」が12.4%、「自分の介護が必要となること」が10.2%となっている。また、家族に関する不安については「家族の者が病気や事故にあうこと」が11.4%、「親の介護が必要となること」が11.0%、「家族の者が死亡するようなことが起こること」が9.7%となっている。双方とも、項目ごとに大きな差はみられなかった。(図表 I - 18)

〈図表 I - 18〉 最も不安な生活上の不安項目

(単位：%)



性別にみると、「自分が病気や事故にあうこと」、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性で、「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」、「家族の者が病気や事故にあうこと」、「家族の者が死亡するようなことが起こること」、「配偶者の介護が必要となること」は女性で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は概ね高齢層ほど高く、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は概ね若年齢層ほど高くなっている。また、「親の介護が必要となること」は男性30～40歳代、女性40歳代で高く、「老後の生活が経済的に苦しくなること」は男性50歳代で高くなっている。(図表 I - 19)

〈図表 I - 19〉 最も不安な生活上の不安項目〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	わからない
		自分が病気や事故にあうこと	老後の生活が経済的に苦しくなること	自分の介護が必要となること	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること	家族の者が病気や事故にあうこと	親の介護が必要となること	家族の者が死亡するようなことが起こること	交通事故などの事故を起したり、相手にケガをさせたりすること		
男性	1,600	21.1	11.3	8.8	8.8	13.7	8.3	11.6	7.8	3.9	2.9	0.9	1.1
20歳代	185	20.0	7.6	2.2▲	5.4	10.3	15.1	12.4	14.6	9.7	1.1	1.1	0.5
30歳代	267	27.0	4.9▲	3.7▲	2.2▲	18.4	9.7	16.9	9.7	3.7	1.1	1.5	1.1
40歳代	395	18.0	10.9	8.4	7.8	18.2	5.3▲	15.9	9.4	2.0▲	2.0	0.0▲	2.0
50歳代	356	19.4	18.5	9.6	12.6	12.6	5.9	11.0	3.4▲	2.8	2.5	0.8	0.8
60歳代	368	22.8	11.4	15.8	13.3	8.4▲	8.4	3.8▲	4.9▲	3.3	6.5	0.8	0.5
女性	2,128	13.8	13.3	11.2	10.9	6.0	13.8	10.5	11.1	3.7	4.1	0.4	1.2
20歳代	175	16.6	12.0	2.9▲	3.4▲	5.7	23.4	8.6	21.1	5.7	0.0▲	0.0	0.6
30歳代	363	13.8	13.5	5.8▲	3.0▲	7.2	19.3	12.9	17.6	3.0	2.8	0.6	0.6
40歳代	509	11.2	13.2	7.1▲	5.5▲	8.8	15.5	16.3	11.8	5.1	3.3	0.4	1.8
50歳代	501	13.4	15.8	15.4	13.0	4.8	11.2	10.4	5.8▲	3.6	6.2	0.0	0.6
60歳代	550	15.6	12.0	17.8	22.4	3.8▲	7.8▲	4.5▲	6.4▲	2.2▲	5.3	0.7	1.5

性・ライフステージ別にみると、「自分の介護が必要となること」は男性では“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”の層で、女性では“既婚・子どもなし”、“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”、“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”の層で、それぞれ高くなっている。また、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性では“既婚・末子未就学児”、“既婚・末子中学生、高校生”の層、女性では“既婚・末子未就学児”、“既婚・末子小学生”の層で高くなっている。（図表 I - 20）

〈図表 I - 20〉 最も不安な生活上の不安項目〔性・ライフステージ別〕

（単位：％）

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	わからない
		自分が病気や事故にあうこと	老後の生活が経済的に苦しくなること	自分の介護が必要となること	自由がきかなくなり、病気がちになること	年をとって体の負担をかけること	家族の者に自分の不慮の死により負担をかけること	家族の者が病気や事故にあうこと	親の介護が必要となること	家族の者が死亡するようなことが起こること	交通事故などの事故を起したり、相手にケガを負わせたりすること		
男性	1,600	21.1	11.3	8.8	8.8	13.7	8.3	11.6	7.8	3.9	2.9	0.9	1.1
未婚	458	19.9	10.3	7.2	9.6	9.4▲	9.6	14.8	9.0	7.0	0.2▲	2.2	0.9
既婚・子どもなし	109	15.6	16.5	11.9	8.3	14.7	5.5	13.8	6.4	1.8	4.6	0.0	0.9
既婚・末子未就学児	219	23.7	5.9▲	3.2▲	2.3▲	18.3	10.5	14.2	15.1	3.7	1.8	0.5	0.9
既婚・末子小学生	154	21.4	11.7	7.1	5.2	18.2	5.2	14.3	11.0	1.9	1.9	0.0	1.9
既婚・末子中学生、高校生	155	20.6	11.6	5.2	9.7	21.3	7.1	13.5	4.5	1.9	3.2	0.0	1.3
既婚・末子短大・大学・大学院生	64	21.9	12.5	12.5	4.7	18.8	6.3	15.6	3.1	3.1	1.6	0.0	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	274	23.0	15.0	11.7	10.9	13.5	6.9	5.8▲	3.6▲	2.2	5.5	1.1	0.7
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	156	22.4	9.6	17.9	17.3	6.4▲	9.0	1.3▲	4.5	3.2	7.1	0.0	1.3
女性	2,128	13.8	13.3	11.2	10.9	6.0	13.8	10.5	11.1	3.7	4.1	0.4	1.2
未婚	336	15.5	16.7	6.0▲	6.8▲	5.1	13.1	14.0	16.7	4.5	0.3▲	0.3	1.2
既婚・子どもなし	147	12.9	16.3	19.0	8.8	3.4	9.5	10.2	6.1▲	4.1	6.8	0.7	2.0
既婚・末子未就学児	293	11.9	9.6▲	3.8▲	2.4▲	9.9	23.2	12.3	20.1	3.1	2.7	0.3	0.7
既婚・末子小学生	211	14.2	9.5	6.6▲	5.2▲	10.0	16.6	12.3	17.5	2.8	4.3	0.5	0.5
既婚・末子中学生、高校生	226	11.5	14.2	8.4	7.5	8.4	14.6	12.8	10.2	6.6	3.5	0.4	1.8
既婚・末子短大・大学・大学院生	110	10.9	13.6	15.5	12.7	0.9▲	15.5	14.5	3.6▲	6.4	6.4	0.0	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	501	15.4	12.8	14.4	16.6	5.0	12.6	8.8	6.0▲	2.6	4.8	0.4	0.8
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	290	14.5	13.1	19.3	22.1	3.8	6.2▲	3.4▲	5.9▲	2.8	6.6	0.7	1.7

(3) 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

最も不安と感じている項目に対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も不安な点に対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
わからない

その結果、「準備できている」（「順調に準備できている」と「ある程度準備できている」の合計）は29.6%、「準備ができていない」（「あまり準備ができていない」と「まったく準備ができていない」の合計）は68.6%となっている。

最も不安と感じている項目別にみると、「準備できている」は多くの項目で30%を超えているなか、“老後の生活が経済的に苦しくなること”は11.0%と最も低くなっている。（図表 I - 21）

〈図表 I - 21〉 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

（単位：％）

	N	準備状況							
		順調に準備できている	ある程度準備できている	準備できている	わからない	準備できていない	あまり準備ができていない	まったく準備ができていない	
全体	3,686	2.7	26.9	29.6	1.8	68.6	44.6	24.0	
自分自身に関する不安	自分が病気や事故にあうこと	630	3.7	35.7	39.4	1.6	59.0	43.3	15.7
	老後の生活が経済的に苦しくなること	462	0.6	10.4	11.0	0.6	88.3	53.2	35.1
	自分の介護が必要となること	379	1.6	28.0	29.6	1.6	68.9	43.0	25.9
	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	374	2.9	30.2	33.2	3.2	63.6	44.1	19.5
	自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること	347	3.2	32.6	35.7	0.0	64.3	45.5	18.7
家族に関する不安	家族の者が病気や事故にあうこと	426	1.9	29.8	31.7	2.1	66.2	47.2	19.0
	親の介護が必要となること	410	1.5	15.6	17.1	1.2	81.7	47.3	34.4
	家族の者が死亡するようなことが起こること	361	3.6	28.8	32.4	2.8	64.8	37.7	27.1
	交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること	141	10.6	39.0	49.6	3.5	46.8	27.7	19.1
	配偶者の介護が必要となること	133	1.5	23.3	24.8	1.5	73.7	48.9	24.8
その他	23	0.0	30.4	30.4	26.1	43.5	17.4	26.1	

4. 生活保障等の経済的準備に対する意識

医療保障、死亡保障、老後保障といった生活保障等の経済的準備に対する意識・行動を捉えるため、2つの考え方や行動を示し、以下のような形式で尋ねた。

ここに、生活保障等の経済的準備について、A、B2つの考え方や行動があげられています。あなたのお考えや行動は、A、Bどちらに近いでしょうか。なお、ここで言う生活保障とは、老後の生活資金や万一の際、病気・ケガなど不測の事態のために経済的に備えることとします。

- (1) A：私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてでも、自ら準備すべきである
B：私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてまで、自ら準備する必要はない
 - (2) A：計画を立てたら、着実に実行する方だ
B：計画を立てても、ずるずると先延ばししてしまう方だ
 - (3) A：損失する可能性があっても高い利益を追求したい
B：損失する可能性があるなら利益が低くても安全な方がよい
- (ア) Aに近い (イ) どちらかといえばAに近い (ウ) どちらかといえばBに近い (エ) Bに近い わからない

(1) 私的な生活保障の準備に対する考え方

私的な生活保障の準備に対する考え方をみると、「生活を切りつめても私的準備必要」（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」と回答した人の合計）は60.6%、「生活を切りつめてまで私的準備不要」（「どちらかといえばBに近い」と「Bに近い」と回答した人の合計）は34.1%となっている。

前回と比較すると、「生活を切りつめても私的準備必要」が4.3ポイント減少している。（図表I-22）

〈図表I-22〉 私的な生活保障の準備に対する考え方

（単位：％）



性別にみると、「生活を切りつめても私的準備必要」は女性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「生活を切りつめても私的準備必要」は男性40～50歳代、女性50歳代で高くなっている。(図表I-23)

〈図表I-23〉 私的な生活保障の準備に対する考え方〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	Aに近い		生活を切りつめても 私的準備必要	わからない	Bに近い		
		Aに近い	どちらかといえば Aに近い			どちらかといえば Bに近い	Bに近い	
男性	1,765	28.8	29.1	57.9	5.4	36.7	15.2	21.5
20歳代	205	21.5▲	25.4	46.8▲	7.3	45.9	24.4	21.5
30歳代	296	23.0▲	25.7	48.6▲	5.7	45.6	21.6	24.0
40歳代	422	28.2	35.3	63.5	2.4▲	34.1	13.0	21.1
50歳代	389	33.9	29.8	63.8	5.4	30.8▲	13.6	17.2▲
60歳代	410	33.4	26.6	60.0	6.1	33.9	9.3▲	24.6
女性	2,249	30.5	32.3	62.8	5.1	32.1	15.3	16.8
20歳代	197	28.9	24.4▲	53.3▲	8.6	38.1	18.8	19.3
30歳代	383	27.2	29.8	56.9▲	3.4	39.7	17.5	22.2
40歳代	526	29.5	35.9	65.4	3.8	30.8	16.5	14.3
50歳代	511	31.3	35.4	66.7	4.7	28.6	12.5▲	16.0
60歳代	593	34.1	31.0	65.1	5.4	29.5	14.0	15.5

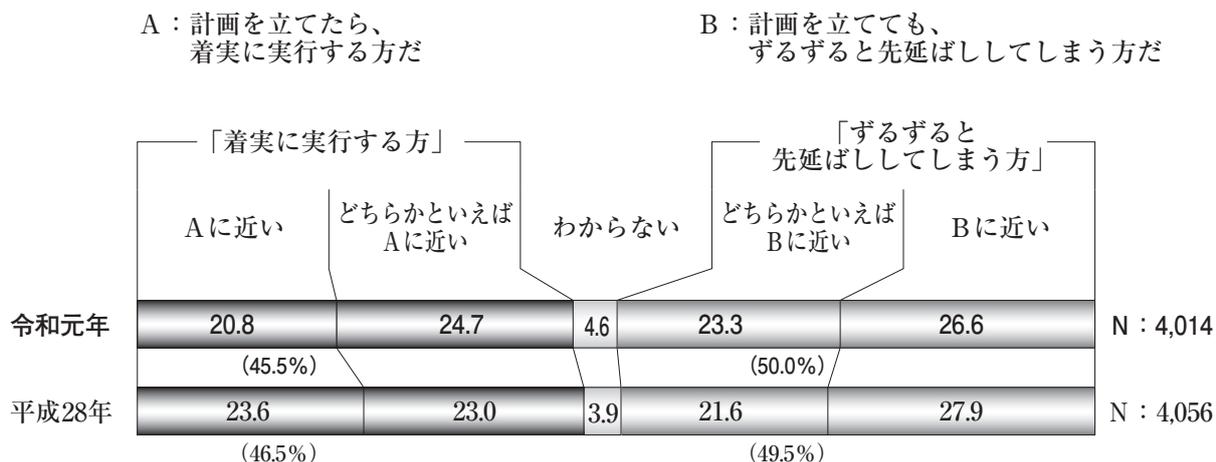
(2) 計画に対する実行性

計画に対する実行性があると考えているかをみると、「着実に実行する方」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は45.5%、「ずるずると先延ばししてしまう方」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は50.0%となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 24）

〈図表 I - 24〉 計画に対する実行性

（単位：％）



性・年齢別にみると、「着実に実行する方」は男性の30歳代で高く、「ずるずると先延ばししてしまう方」は女性の50歳代で高くなっている。（図表 I - 25）

〈図表 I - 25〉 計画に対する実行性〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	Aに近い		着実に実行する方	わからない	ずるずると先延ばししてしまう方	Bに近い	
		Aに近い	どちらかといえばAに近い				どちらかといえばBに近い	Bに近い
男性	1,765	21.0	24.5	45.6	4.6	49.8	23.7	26.1
20歳代	205	18.5	24.4	42.9	4.9	52.2	27.3	24.9
30歳代	296	23.0	29.4	52.4	3.7	43.9▲	20.3	23.6
40歳代	422	19.7	24.9	44.5	1.7▲	53.8	23.9	29.9
50歳代	389	20.3	22.6	42.9	5.1	51.9	28.3	23.7
60歳代	410	23.4	22.7	46.1	7.1	46.8	19.8▲	27.1
女性	2,249	20.6	24.8	45.4	4.5	50.1	23.1	27.0
20歳代	197	20.3	26.9	47.2	6.1	46.7	25.9	20.8▲
30歳代	383	24.3	25.1	49.3	2.6	48.0	23.2	24.8
40歳代	526	14.6▲	30.4	45.1	3.0	51.9	23.8	28.1
50歳代	511	18.8	19.0▲	37.8▲	3.3	58.9	29.4	29.5
60歳代	593	25.8	22.8	48.6	7.4	44.0▲	16.2▲	27.8

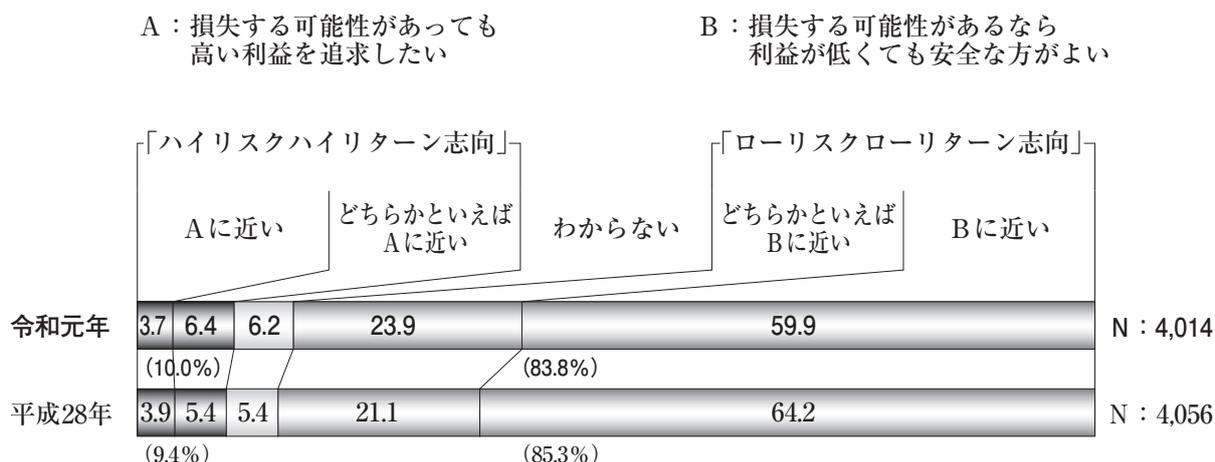
(3) リスクとリターンに対する考え方

リスクとリターンに対する考え方をみると、「ハイリスクハイリターン志向」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は10.0%、「ローリスクローリターン志向」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は83.8%となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 26）

〈図表 I - 26〉 リスクとリターンに対する考え方

（単位：％）



性別にみると、男性で「ハイリスクハイリターン志向」が14.8%と高く、女性で「ローリスクローリターン志向」が87.7%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「ハイリスクハイリターン志向」は男女とも20歳代で高くなっている。一方、「ローリスクローリターン志向」は男性60歳代、女性50歳代で高くなっている。（図表 I - 27）

〈図表 I - 27〉 リスクとリターンに対する考え方〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	ハイリスクハイリターン志向		わからない	ローリスクローリターン志向			
		Aに近い	どちらかといえばAに近い		Bに近い	どちらかといえばBに近い		
男性	1,765	5.4	9.3	14.8	6.4	78.8	26.1	52.7
20歳代	205	6.8	15.1	22.0	6.3	71.7▲	23.4	48.3
30歳代	296	5.7	10.8	16.6	7.4	76.0	29.4	46.6▲
40歳代	422	6.6	9.7	16.4	2.8▲	80.8	28.4	52.4
50歳代	389	5.1	8.2	13.4	5.1	81.5	29.6	51.9
60歳代	410	3.2▲	4.9▲	8.0▲	9.5	82.4	20.5▲	62.0
女性	2,249	2.3	4.0	6.3	6.0	87.7	22.1	65.6
20歳代	197	3.6	6.6	10.2	7.1	82.7▲	24.9	57.9▲
30歳代	383	1.8	5.2	7.0	4.2	88.8	25.3	63.4
40歳代	526	1.3	4.4	5.7	4.6	89.7	25.3	64.4
50歳代	511	2.7	2.3▲	5.1	4.1▲	90.8	21.9	68.9
60歳代	593	2.5	2.9	5.4	8.9	85.7	16.2▲	69.5

5. 金融・保険に関する知識

自分自身の金融・保険に関する知識がどの程度かと認識しているかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

あなたは、金融や保険についての知識をどの程度お持ちですか。この中からあてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

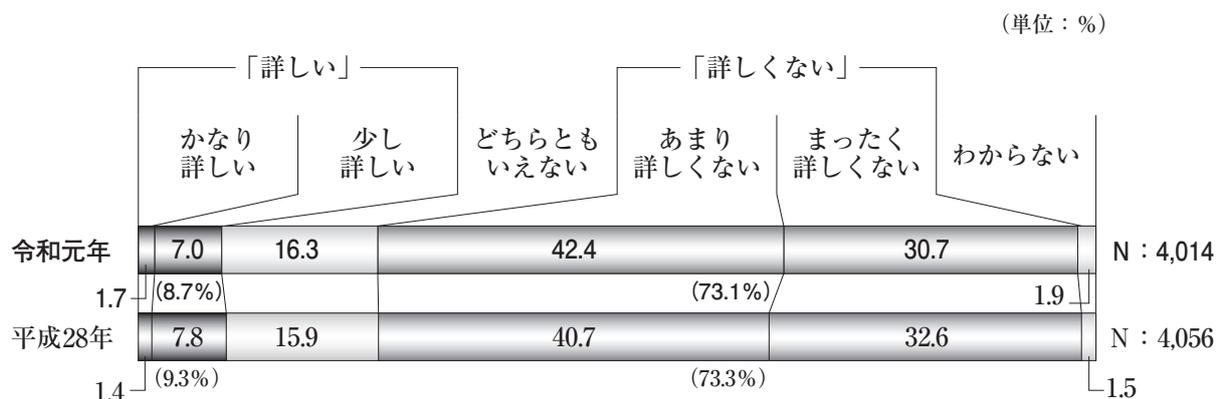
- (1) 金融について
- (2) 保険について
 - (ア) かなり詳しい
 - (イ) 少し詳しい
 - (ウ) どちらともいえない
 - (エ) あまり詳しくない
 - (オ) まったく詳しくない
 - わからない

(1) 金融に関する知識の自己評価

金融に関する知識の自己評価をみると、「詳しい」（「かなり詳しい」と「少し詳しい」と回答した人の合計）は8.7%、「詳しくない」（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」と回答した人の合計）は73.1%となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 28）

〈図表 I - 28〉 金融に関する知識の自己評価



性別にみると、男性で「詳しい」が11.6%と高く、女性で「詳しくない」が77.5%と高くなっている。
 性・年齢別にみると、「詳しい」は女性50歳代で高くなっている。(図表 I - 29)

〈図表 I - 29〉 金融に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

(単位：%)

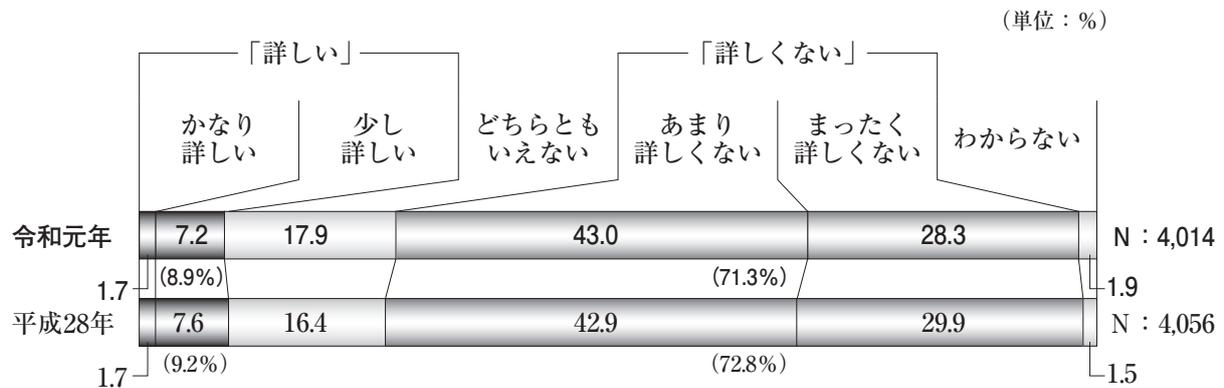
	N	かなり詳しい	少し詳しい	詳しい	どちらとも いえない	詳しくない	あまり 詳しくない	まったく 詳しくない	わからない
男 性	1,765	2.5	9.0	11.6	19.5	67.4	41.6	25.7	1.6
20歳代	205	0.5▲	6.3	6.8▲	15.6	76.1	36.6	39.5	1.5
30歳代	296	2.4	11.1	13.5	15.9	70.3	42.9	27.4	0.3
40歳代	422	1.9	10.2	12.1	19.9	67.1	42.4	24.6	0.9
50歳代	389	4.9	8.0	12.9	21.9	63.8	43.7	20.1▲	1.5
60歳代	410	2.4	9.5	12.0	22.7	63.2▲	42.7	20.5▲	2.2
女 性	2,249	1.1	5.4	6.5	13.8	77.5	43.0	34.5	2.1
20歳代	197	0.0	3.0	3.0▲	4.1▲	90.4	31.5▲	58.9	2.5
30歳代	383	0.5	5.2	5.7	9.7▲	82.2	42.6	39.7	2.3
40歳代	526	1.1	3.6▲	4.8	13.9	79.1	47.3	31.7	2.3
50歳代	511	1.8	7.4	9.2	18.6	71.0▲	46.2	24.9▲	1.2
60歳代	593	1.3	6.6	7.9	15.9	73.5▲	42.3	31.2▲	2.7

(2) 保険に関する知識の自己評価

保険に関しての知識の自己評価をみると、「詳しい」（「かなり詳しい」と「少し詳しい」と回答した人の合計）は8.9%、「詳しくない」（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」と回答した人の合計）は71.3%となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 30）

〈図表 I - 30〉 保険に関する知識の自己評価



性別にみると、女性で「詳しくない」が74.2%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「詳しい」は男女とも50歳代で高くなっている。（図表 I - 31）

〈図表 I - 31〉 保険に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	「詳しい」		「どちらともいえない」	「詳しくない」	「詳しくない」		「わからない」	
		かなり詳しい	少し詳しい			あまり詳しくない	まったく詳しくない		
男性	1,765	2.0	7.4	9.4	21.4	67.6	41.7	25.9	1.6
20歳代	205	0.0▲	4.4	4.4▲	15.6▲	79.0	38.5	40.5	1.0
30歳代	296	2.0	9.8	11.8	19.3	68.2	40.2	28.0	0.7
40歳代	422	2.1	5.9	8.1	22.7	68.2	43.4	24.9	0.9
50歳代	389	3.6	9.3	12.9	23.1	62.2▲	44.2	18.0▲	1.8
60歳代	410	1.5	7.8	9.3	24.1	64.4	42.9	21.5▲	2.2
女性	2,249	1.5	7.1	8.6	15.2	74.2	44.0	30.1	2.1
20歳代	197	0.0	5.1	5.1	4.6▲	87.8	36.0▲	51.8	2.5
30歳代	383	1.0	5.2	6.3	12.3	79.1	46.7	32.4	2.3
40歳代	526	1.3	5.7	7.0	16.2	74.7	46.4	28.3	2.1
50歳代	511	2.5	9.6	12.1	20.2	66.3▲	45.0	21.3▲	1.4
60歳代	593	1.7	8.4	10.1	16.2	71.2	43.3	27.8	2.5

(3) 生命保険や金融に関する知識量

生命保険や金融に関する知識量を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここに挙げられている生命保険や金融に関する説明は正しいと思いますか。それとも間違っていると思いますか。

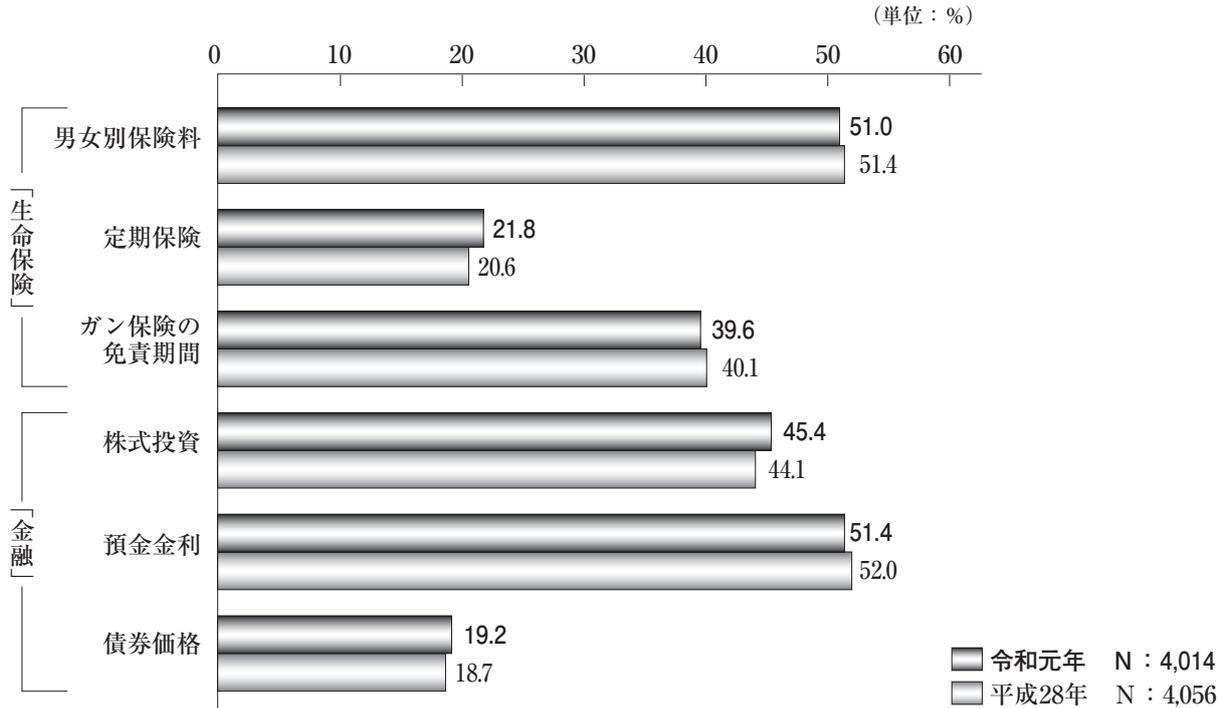
- (1) 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない……………以下「男女別保険料」
- (2) 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる……………以下「定期保険」
- (3) ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない……………以下「ガン保険の免責期間」
- (4) 一般的に、1社の株式だけに投資する方が、
多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する……………以下「株式投資」
- (5) お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい……………以下「預金金利」
- (6) 一般に、利率率が上昇すると債券価格も上昇する……………以下「債券価格」
 - (ア) 正しい
 - (イ) 誤り
 - わからない

それぞれの内容が正しいか誤りかを尋ねたところ、正答率は「預金金利」が51.4%で最も高く、以下「男女別保険料」(51.0%)、「株式投資」(45.4%)、「ガン保険の免責期間」(39.6%)の順となっている。

正答数の分布をみると、「2問正解」が22.7%で最も多く、以下「3問正解」(21.0%)、「全問不正解」(16.8%)、「1問正解」(16.0%)、「4問正解」(15.1%)の順となっている。

前回と比較すると、項目別の正答率、正答数の分布ともに大きな差異はみられなかった。(図表 I - 32)

〈図表 I - 32〉 生命保険や金融に関する知識量



「男女別保険料」…………… 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない

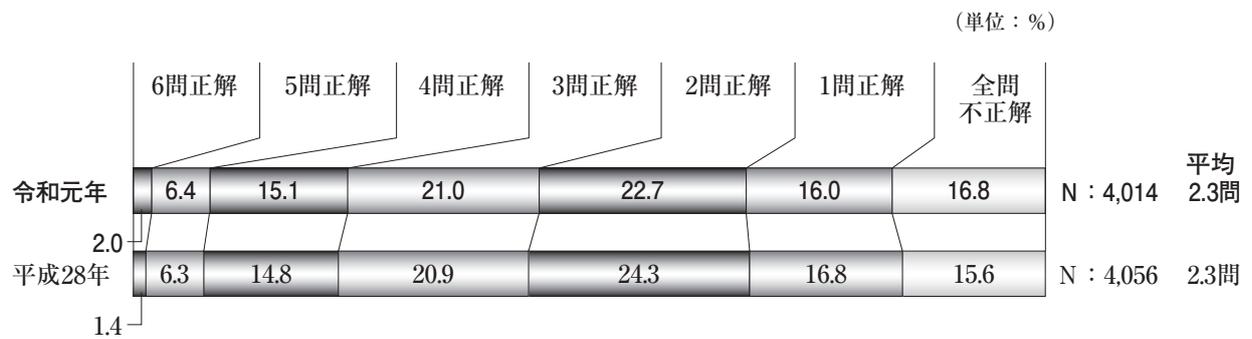
「定期保険」…………… 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる

「ガン保険の免責期間」… ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない

「株式投資」…………… 一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する

「預金金利」…………… お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい

「債券価格」…………… 一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する



正答数の分布について性・年齢別にみると、男性40歳代で「6問正解」が高く、女性30歳代で「4問正解」が高くなっている。また、女性40歳代で「1問正解」、60歳代で「全問不正解」が高くなっている。正答数の平均は男性では40歳代（2.54問）、女性では30歳代（2.43問）が最も高くなっている。（図表 I - 33）

〈図表 I - 33〉 生命保険や金融に関する知識量〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	6問正解	5問正解	4問正解	3問正解	2問正解	1問正解	全問不正解	平均（問）
男 性	1,765	2.2	6.8	15.2	21.1	23.5	15.1	16.1	2.33
20歳代	205	1.5	6.3	14.6	20.0	26.3	14.1	17.1	2.26
30歳代	296	2.0	5.1	15.2	21.3	24.3	16.6	15.5	2.27
40歳代	422	4.0	7.8	15.2	23.5	23.0	13.3	13.3	2.54
50歳代	389	2.6	6.2	16.7	19.3	26.7	15.4	13.1	2.40
60歳代	410	0.5▲	8.3	15.6	22.2	19.3▲	15.6	18.5	2.28
女 性	2,249	1.9	6.0	15.0	20.9	22.1	16.8	17.3	2.25
20歳代	197	3.0	6.1	17.8	25.4	13.7▲	13.7	20.3	2.37
30歳代	383	2.1	6.3	19.1	20.6	22.2	16.7	13.1▲	2.43
40歳代	526	2.1	7.6	16.0	18.4	23.8	20.7	11.4▲	2.38
50歳代	511	1.6	5.1	14.5	22.5	24.7	15.9	15.9	2.25
60歳代	593	1.7	5.1	11.3▲	20.9	22.3	15.7	23.1	2.04